

教育プログラムの概要及び採択理由

機関名	東京大学	申請分野(系)	理工農系
教育プログラムの名称	大学連携によるICTリーダーシップ教育 (多様性と流動性の育成)		
主たる研究科・専攻名	情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)	慶應義塾大学政策・メディア研究科政策・メディア専攻		
取組実施担当者	(代表者)下山 勲		

[教育プログラムの概要]最近の情報社会の急速な発展により、**情報科学技術分野の多様化**が進むとともに、育成する**職種に対する要請は多様化**している。特に博士後期課程を修了し博士号を取得した高度な情報科学技術に関する多様な専門性を有する人材の需要は増大の一途をたどっている。①大学等の教育研究者、②公的研究機関、企業研究所における中核的研究者は、従来から博士が必須である職種であった。国際化の進展にともない③企業等における最高度の開発者、④各種機関、企業におけるCIO(Chief Information Officer)などIT業務の中核を担うトップレベル高度ICT人材に博士レベルの著しく高度な専門性とITガバナンスが求められている。さらに、⑤自らの技術を基礎に知的創造の社会へ発信する起業家、⑥企業等におけるプロジェクトマネージャーなど**国際的リーダーシップ**をもつ人材の育成に大学院課程における教育が大きくかかわっている。本申請は、「**体系的知識と科学的手法を体得し、問題発見解決型のリーダーシップを持ち、多様性・流動性を持つ博士レベル人材**」を、大学院教育を通して供給することを目的とする。

この目標を達成するため、情報科学技術という原点を共有するが大きく異なったアプローチで教育を実施している**東京大学大学院情報理工学系研究科**と**慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科**が、各々の特徴を生かしつつ密に連携した大学院教育を実現する。東京大学情報理工学系研究科は「情報理工学の体系的知識を身につけ専門分野を深く探求することで情報科学技術を主導する人材を育成すること」を目的とし、慶應義塾大学政策・メディア研究科は「問題発見解決型の教育を通して革新的な研究と教育を実施すること」を目的として教育研究を実施してきた。両者の連携により初めて「**体系的知識と科学的手法を持ち、問題発見解決型のリーダーシップを持ち、多様性・流動性を持つ博士レベル人材**」の育成が可能となる。

本申請では、両大学院において、情報科学技術の各専門分野における研究教育、システム創造および理論創造のための基礎理論、基本知識、基本技能の習得に加えて、説明能力、論文(特に英語論文)執筆能力、外国人とのコミュニケーション能力向上など、社会との関わりに必要とされる能力をもつ人材育成を行う。特に国際的な流動性、産学の流動性を指向した適応能力開発を目標とする教育を組織化されたカリキュラム、副アドバイザー制、教育における産学連携、国内外へのインターンシップの実施により実現する。

これら大学院課程実質化のための標準的な改革に加え、本申請は東京大学・慶應義塾大学が**連携して初めて実現**する(1)クロス連携して実施する講義・コースワークによる多様性・流動性の教育、(2)両校の特徴を生かす講義・演習を複合することによる科学技術の深化と政策・ガバナンス能力の獲得、(3)大学間短期間相互派遣による学際的な分野への対応能力を含めた適応能力の育成を特徴とする。

これらの連携により博士号取得者の多様性・流動性に対する適応能力を保証し、その能力を明確化する。本申請の課程修了者は、主たる大学の博士号に加え、両校が設定する履修条件を満たすことにより、**主・副の大学からのサーティフィケート(証明書)**を取得して、獲得した能力が認定される。

具体的には、クロス連携として、(1)2つの研究科の総合力による組織化したICT基礎力の涵養、(2)グループワークによる討論の能力/アイデア出し演習による企画力育成、(3)東京大学・慶應義塾大学間での学生派遣“修行”による未経験分野での適応訓練を通じた多様性教育、(4)両大学と産業界の三角連携研究によるリーダーシップ教育、(5)両校合同で実施する情報学における講義とPBLの組み合わせにより戦略性・創造性教育の高度化とシステム化を実現する。大学院間の連携に加え、(6)システム創造および理論創造のための基礎力講座、(7)論文(特に英語論文)執筆能力向上講座、(8)国際的なコミュニケーション能力、プロジェクトマネジメント能力の育成と、(9)インターンシップなど教育における国内外連携の高度化、(10)博士後期課程在学中および修了直後の起業を促進するマネジメント教育とインキュベーションを実施する。

特に、従来成果をあげてきた複数の教官対個人という教育に加え、共同で物を作り上げるグループワークを重点的に行うことで、コミュニケーション能力と適応力の相乗効果を導き、創造性を高める教育を行う。また、担当する教員群に求められる資質の明確化、研究倫理向上のためのFD実施により、教員の資質向上と多様性確保を実現する。

東京大学：大学連携によるICTリーダーシップ教育

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

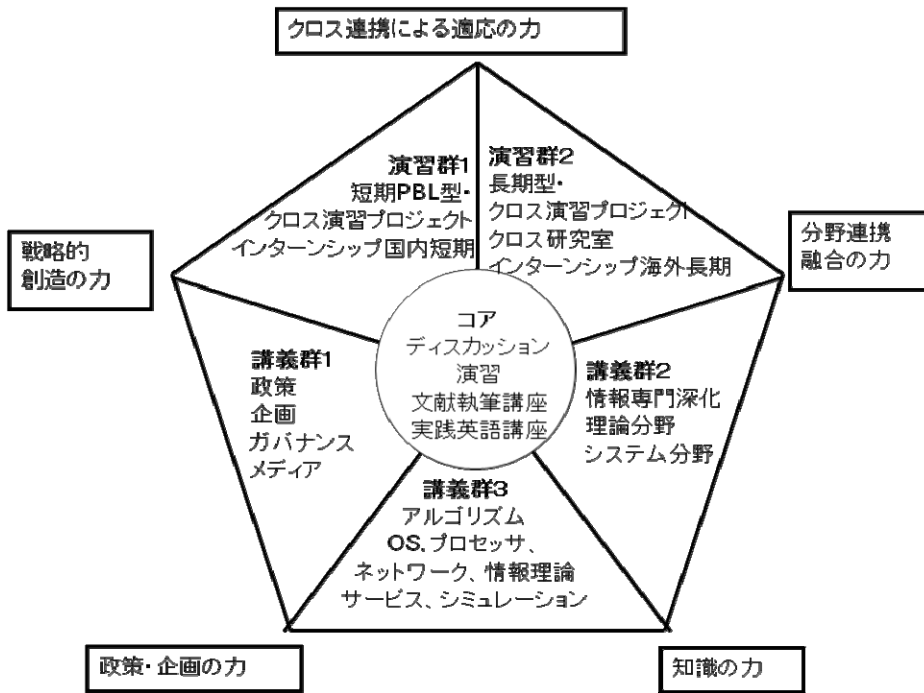


図1 カリキュラム要素の関連図

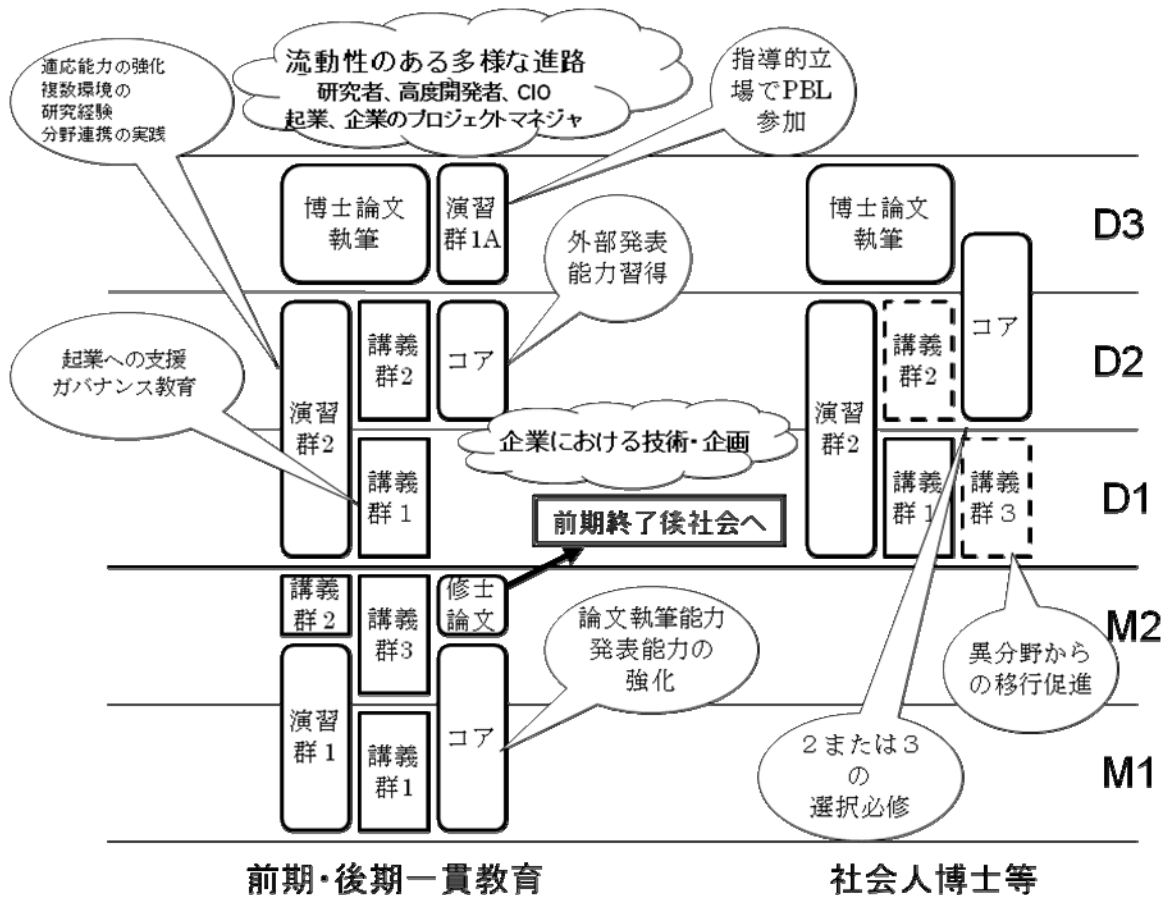


図2 モデル履修プラン

<採択理由>

教育プログラムについては、東京大学、慶應義塾大学が共同して「研究者や高度開発技術者だけでなく多様な職種、多様な分野で活躍する人材」の養成という目的を具現化するため、特に両大学それぞれの特長的な講義の連携や、大学間での短期間相互派遣の取組が計画されている点は、豊富な人的資源を高度に利用し、流動性を高める取組として高く評価でき、これまでの両大学の交流実績から見ても、その実現性、実効性が期待できる。また、本教育プログラムの大学全体の中での位置付けも明確にされており、全学的な支援体制が計画されていることから、今後の展開が大いに期待できる。